

日本共産党
厚木市

議員団ニュース

2012年3月④ 403号

議員団HP <http://jcpatsugi.blog.shinobi.jp/>

市民サービス向上は図れるか

2月議会最終日
反対討論(3月16日)
釘丸久子議員

厚木市議会2月定例会が3月16日に終わりました。日本共産党厚木市議員団では、補正予算、給与改定、新年度予算(一般会計、国民健康保険、後期高齢者医療事業、介護保険)など8議案に反対して討論を行いました。24年度一般会計予算に対する反対討論です。

民主党政権は「税と社会保障の一体改革」と称して、その実は消費税を増税し社会保障は切り下げです。「国民の生活が第一」という民主党の政権交代の一枚看板は地に落ちたも同然です。社会保障改悪と消費税増税は、被災者や国民の生活を直撃し、内需をいっそう痛めつけて税収を減らします。内需が冷えると、大企業に減税しても国内投資は増えず、財政悪化に拍車をかけるだけに終わることは明らかです。

野田首相は、野党時代に自民党・橋本内閣の消費増税に対して「政府が一挙に増税路線にシフトした後の惨憺(さんたん)たる日本の経済の状況を私も肌をもって感じた」「もっとも愚かで、もっとも無意味で、破壊的な経済政策」と言いました。

今、野田首相自身が、同じ轍を踏もうとしています。

平成24年度厚木市一般会計予算

新年度予算は736億円。前年度より53億2千万円の減額です。法人市民税は東日本大震災で企業業績に影響が出たということと昨年より1億1千万円の減の45億2900万円になっています。個人市民税は、所得の減少による市民税の減は4億円ですが、年少扶養控除の廃止で6億4千万円も負担が増えています。国の悪政の影響が市民生活に「負担増」という暗い影を落としています。

市は財政状況が厳しいとして、消耗品などの経費を厳しく切り詰めた。人員削減で

今週の活動から



日曜日と金曜日は本厚木駅前では宣伝しています。2月議会の内容が話されました。(左:釘丸久子議員)



3・13重税反対 全国行動に市を聞きまし。 (右:栗山香代子議員)

ますます仕事が忙しくなつたうえに、給与が減額されるのでは職員のモチベーションは下がってしまいます。それはまた、市民サービスにも影響が出てしまいます。

「行政改革推進度 全国2位」と市長は鼻高々ですが、行政改革と市民サービスの関係、職員の負担などを考慮しているのでしょうか。

企業誘致については、党議員団として毎回指摘してきたところですが、固定資産税減免はしなから、正規雇用はどれだけ増えたか、税収への影響はどうだったのか、厚木市の経済にどう貢献してきたのか、不透明です。

保育所待機児童解消のため認定あつぎ園として幼稚園を活用し、さらに私設保育施設を認定あつぎ保育室に格上げします。しかし、保育士基準は認可保育所より低く、保育環境が十分良いものになっていくのか疑問です。最大の問題点は認可保育所なら応能負担である保育料が、認定あつぎ保育室は一律であるということです。保護者負担軽減のために補助はあっても応能負担とはなりません。自由契約への保育、新システムへの地ならしとも考えられます。

学校教育では、小学校の少人数制を小学校3年生までに引き上げます。国より一歩前という市教育委員会の気持は感じるものの、新しく4年生になる児童は、いつまでも40人学級のままです。

中学校学校選択制については、実施後いろいろ矛盾が現れ、見直しの議論が出ています。子どもは地域で育てるものです。地域から子どもを遠ざけ、学校間格差を広げるものです。原点に戻った見直しを求めます。

放課後あつぎ三元気塾は、保護者や子どもたちが希望するからといって進めたいものでしょうか。少しでも子ども

もが勉強ができてほしいと願うのは保護者の率直な気持ちです。学習は、本来、授業の中でわかることが当然です。授業中に理解できないのはなぜか。学習内容、学習指導要領が詰め込み過ぎで子どもの理解を阻んでいるとしたら、まずそこからの真剣な検討が必要だと思います。子どもたちの放課後を奪っていいものではないでしょうか。

放課後児童クラブについては新年度で厚木小学校で増設をします。市の児童保育は、全小学校、公設公営で実施していますが、学校の一時的余裕教室を借りているため、大規模校では余裕教室が少なく、希望があっても入れない状態です。待機児童の解消を望みます。

駅前の時計塔「アユボ」は、市政50周年記念として3千万円で建設しました。その3年後にはすでにデジタル文字の一部が欠けて見づらくなっています。現在、時計の文字は消えています。その修理に200万円もかかるということが都市経済常任委員会でも明らかになりました。事業を始める前にラニングコスト、補修費なども考慮すべきです。

(仮称)あつぎ元気館への議論が今議会では集中しました。

それだけ、市民も議会も関心を持っているということであり、市当局の提案があまりにも唐突に過ぎたということとです。「まず取得ありき」という指摘もありました。

理事者側の説明を聞いていると大きな夢ばかりを膨らませているようにも感じられ、事業として具体的な内容は不明確です。

新年度には市民が参加する検討組織を立ち上げて、どのような施設にするか協議するといっています。その一方で、改修の設計費も予算計上しています。はたして半年程度で施設の方向性が決まるのでしょうか。拙速のそりも出てきます。

日本共産党厚木市議員団は、「旧パルクを含む、空き店舗を公共の施設として活用できるよう研究すること」を毎年の予算要求で言ってきました。パークビル(旧パルク)を、あの状態ですと置いておくことや、好ましくない施設として民間使用がされるのは、厚木市民にとっても良いこととは考えられません。今後の事業を実施するに当たり、市民、議会への十分な関与を保障するよう求めるものです。

※この他の討論や各会派の賛否については次号でお知らせします。